

1 研究主題

「情報社会に主体的に生きる力を育む教育の研究と実践」

2 情報教育技術研修会

(1) 期日 平成 30 年 8 月 24 日 (金)

(2) 会場 内子町立内子中学校 コンピュータ教室

(3) 講師 愛媛県総合教育センター情報教育研究室 長期研修生 川野 博章 他

(4) 研修内容

① プログラミング学習の実技研修

ア 新学習指導要領が示すプログラミング教育の概要

小・中学校の学習指導要領の改訂に伴って、プログラミング教育の位置付けについての研修を行った。特に小学校のプログラミング教育の在り方について、文部科学省の資料や未来の学びコンソーシアムなどの Web ページを紹介していただき、知見を深めることができた。

イ プログラミング教育の「5W1H」

「いつ？」 小学校は各教科、中学校は技術科、高校は情報に関する科目。

「どこで？」 小学校では必修だが単元は学校で適切に配置。中・高校は教科としての位置づけ。

「だれが？」 授業担当の全教職員 「だれと？」 外部講師も活用

「何を？」 ツールは様々である。(アンプラグド→ビジュアル型→計測・制御ロボット→構文型)

「どのように？」 小学校では従来の資質・能力とプログラミング的思考が伸びるように。中・高校では教科の目標が達成されるように。

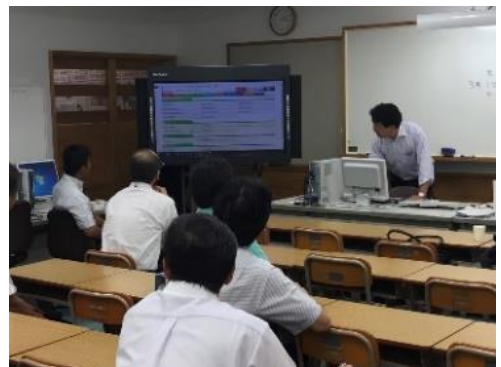
ウ プログラミング実習、指導事例紹介

ビジュアル型プログラミングソフトとして、「Scratch」を紹介していただき、実習を通してその操作方法を研修した。算数の図形の学習につながる指導方法も紹介していただくことで、どのようにして小学校の授業に取り入れていくのか考えることができた。

② 校務支援システム「Te-Comp@ss」および「ミライム」の実技研修

ア 校内支援システムの研修

喜多郡では今年度より校内支援システムを導入し、成績処理や事務作業の効率化に努めている。しかしながら、導入初年度ということもあり、1学期の学期末処理ではシステムの操作方法等で疑問が生じたり改善の要望が出たりした。そこでこれらの疑問や改善要望を各校で持ち寄り、「Te-Comp@ss」を管理していただいている文溪堂の方と研修を進めた。疑問を1つずつ解決していきながら、さらに便利な使用方法も教えていただいた。



イ 「ミライム」の研修

校内支援システムと同様に、今年度より「ミライム」も導入している。学校間・学校内での連絡に加えて、アンケート調査など様々な場面での活用が期待されている。校務負担の軽減に少しでもつながるように、効率的な使用方法について詳しく教えていただいた。

3 成果と今後の課題

今回の研修会を通して、教職員自身が情報活用能力の向上を図っていくことの大切さを改めて実感した。そのためにも、プログラミング教育やソフトウェア・ツールがどのようなものか知り、継続的に関わっていくことが第1歩であると考え。これからも時代のニーズに応えた情報教育の研修に努めていきたい。